

「原発性副甲状腺機能亢進症における骨代謝異常の病態について検討」 に関する研究のお知らせ

帝京大学ちば総合医療センターは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間： 2023 年 9 月 20 日 ～ 2026 年 3 月 31 日

〔研究課題〕 原発性副甲状腺機能亢進症による骨 Ca 代謝異常の評価

～正 Ca 血症性原発性副甲状腺機能亢進症疑い例における PTH-Ca axis の評価を中心に～

〔研究目的〕

原発性副甲状腺機能亢進症は、副甲状腺ホルモンの過剰分泌により、高カルシウム血症を呈し、尿路結石症や骨粗鬆症などの原因となる疾患です。一部には、血清カルシウム濃度が正常な原発性副甲状腺機能亢進症があることも知られています。しかし、この正カルシウム血症性原発性副甲状腺機能亢進症の長期経過については明らかにされていません。また、鑑別に難渋するビタミン D 欠乏との明確な診断基準もありません。そこで、本研究では、副甲状腺ホルモン値上昇により、原発性副甲状腺機能亢進症が疑われた方を対象に、それぞれの病態における骨カルシウム代謝関連指標を横断的、縦断的に探索することを目的としています。

〔研究意義〕

本検討により、実臨床における正カルシウム血症性原発性副甲状腺機能亢進症の長期経過が明らかになります。典型的な原発性副甲状腺機能亢進症への進展の有無や骨粗鬆症などの合併症の発症率、それぞれの病態における骨代謝異常の違いも明らかになります。また、ビタミン D 欠乏との鑑別に有用な臨床的指標と基準が得られる可能性があります。

〔対象・研究方法〕

2012 年 1 月～2022 年 12 月の期間に「副甲状腺機能亢進症」の診断および疑いとして病名登録された方のうち、小児や慢性腎障害、高 Ca 血症を示す他の原因疾患を除き、副甲状腺ホルモン値が 50 pg/ml 以上を示す方を対象としています。

〔研究機関名〕 帝京大学ちば総合医療センター第三内科

〔個人情報の取り扱い〕

研究に用いる情報は特定の個人が識別できない状態に加工された状態で使用するため、個人が特定されることはありません。また、個人情報は診療録内で管理し、外部に漏れる心配はありません。保管期間終了後は情報漏えい・滅失・き損等に配慮して廃棄されます。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：氏名 井上 大輔 主任教授

研究分担者：氏名 井上 玲子 講師

所属： 帝京大学ちば総合医療センター第三内科（内分泌代謝内科）

住所：市原市姉崎3426-3 TEL:0436-62-1211（代表）〔内線 2011 〕